



Kumamoto University Library Bulletin, No.12, October. 1995

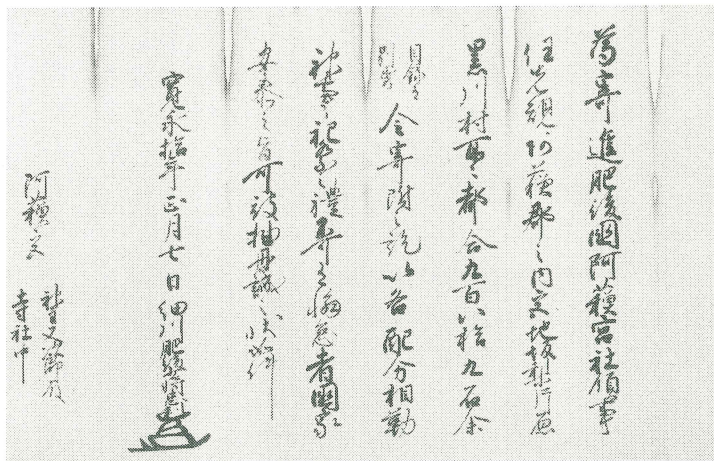
● 図書館長に就任して

● 図書館への思い

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介11

● 重要文化財 阿蘇家文書(34巻36冊)

● 情報サービスと資料保存



[D] 細川忠利判物

為寄進肥後國阿蘇宮社領事、

任先規阿蘇郡之内宮地・坂梨・竹原・

黒川村所々都合九百八拾九石余

目録 令寄附之訖、以各配分、相勤

別格 神事・祀祭之禮、不可有懈怠者、國家

安泰之旨、可被抽丹誠之状如件、

寛永拾年正月七日 細川肥後少将忠利(花押)

阿蘇宮 神主又次郎殿
寺社中

(阿蘇友貞)

図書館長に就任して

金 原 理



図書館には細川家の旧蔵で現在の永青文庫の蔵書のうちの、文学書と古文書の一部が寄託されている。これらの文献については、かつて法文学部に在籍された森田誠一教授を中心とした方々の手によって詳細な目録が編まれ、閲覧の便に供されていることは周知の通りである。そしてこの永青文庫は図書館の地下の二層の、そのために誂えられた特別室に納められている。

これらの古文書が本学に寄託される前は、JR熊本駅近くの細川家の廟と森鷗外もりおうぐわいの小説で有名な阿部一族の墓のある北岡自然公園の入口近くにある土蔵の中にあった。

もうかれこれ三十数年前にもなろうか、大学院に進学してまもなく、指導教官に伴われてここまで本を見せていただきに通ったことがある。蔵の開閉は細川家ゆかりの方一八代から出てこられていた一の手によって行われ、何うことをあらかじめ連絡しておく、わざわざそのために出向いてこられ、重い扉を開けて待っていて下さった。土蔵の中から見たい本の入っている木箱を運びだし、そこから本を取り出して必要事項を記録するために鉛筆を走らせる。疲れて来ると手をとめて、眼前の写本一江戸の初め頃に写された本がほとんどだが一に思いを馳せる。とくに『源氏物語』の写本に幾種類か存在するのだが、美しい螺でんなまのちりばめられた漆の深い艶のある箱に大切に納められていて、艶があって腰のしっかりした鳥の子紙にのびやかな字で写されている本一これは俗に嫁入り本と称され、実際に輿入れの折に姫君が持参した一を前にして、輿入れした若い婦人たちはあの『更級日記』の作者、菅原たかすゑ孝標の娘のように「一の巻よりして、人もまじらず、几帳のうちのうちふしてひき出でつつ見るこち、後の位も何にかはせむ」<源氏物語を一の巻から読み始めて、たった一人で几帳の内に伏せて、はこから一冊ずつ取り出しては読む気持ち、この幸福感の前には後の位も何になろう。>と、この写本を手にとって一心に読み耽ったのだろうかなどと数世紀隔った昔に遡って、彼らと共通の時間の中に意識を遊ばせたりもした。その日の調査を終えて本を木箱に納め蔵に戻すと、朝お逢いした管理の責任者が来られて扉を閉ざし、挨拶を交わして一日を終える。日が西に傾きかける頃である。かつてはこうして文庫を拝見したものだった。

私は二十数年前こちらに赴任したが、今の図書館が

建てられたのはそのじき後で、寄託された永青文庫や大学所蔵の阿蘇家文書などの貴重書は地下の特別な部屋に納められ、現在に到っている。

このたびはからずも図書館長をお引受けすることになった。館長の役目はこの永青文庫の本をはじめ図書館収蔵の図書の番をするものだと無邪気にも信じ込んでいたのである。

しかしこの考えがいかにもずれたものかということを知った。就任後、日ならずして悟った。図書館の主要な仕事はコンピューターを駆使した情報の交換と提供にあるということを知ったのである。

たしかにコンピューターを利用すれば新幹線や飛行機でどんなに早く動こうとも、生身の人間が物理的に移動するよりずっと早く、まさに瞬時にして、国内はもとより国外の図書館の書庫にまで入り込んで、必要な文献を捜し出し、場合によってはその内容についてもある程度の情報を入手することもできる。あるいはもっとも新しい研究の情報をいち早く自らの研究室の端末器の画面上に呼び出すことだってできるのである。

すぐれた文献を収蔵してゆくという仕事と同時に、図書館の主要な役目がこうしたサービス業にあるとすれば、それはすばらしいことだしまことに愉快なことではないか。

館長に就任して三箇月、どうやら仕事にも慣れた。とは言え到らざるところも多いと思う。どうか図書館のためにご援助とご鞭撻をせつをお願いしたい。

(きんばら ただし 図書館長)

図書館への思い

等 泰 三

戦前の県立図書館は、現在の白川公園の一画にあった県庁の北隅に置かれていた。

その西側に30坪程の子供図書館があり、中学校に上るまで、毎日曜日通っていたので、図書館には特別な思いがある。

住んでいた熊本駅前からは、子飼橋まで通じていた電車に乗れば簡単とはいながら、国民学校、今の小学校二年生にとっては、かなりの冒険旅行であったが、つらいと思った記憶はない。

体操の時間は、雨が降れば自習時間で、二年生ともなれば、先生も職員室で休憩である。当然、自習時間は自由時間で、悪ガキの天下である。その命令で歌大会がはじまる。歌えない者にとっては、恐怖の地獄である。“イジメ”にもつながりかねない大変なピンチである。幸い“お話”することで切抜けて、ホッとしたのを憶えている。

また雨が降ったら、今度は初めから“お話”の注文である。歌わなくて良いのが嬉しかった。その後、雨の日になると“お話”大会となり、種がつかくわけもなく、子供心にも種の仕入れに必死の図書館通いだっと思うが、結構楽しく、中学校に上るまで続いたようである。

中学校には、何倍も大きな図書館があったが、自由を選べる子供図書館とは違い、楽しんだ憶えはない。

昭和25年、新制2年生として入学した黒髪キャンパスにも、旧五高図書館があったが利用した憶えはない。

薬学部の大江キャンパスに移り、焼跡のバラックの中で、金庫かと思う程、コンクリート壁の厚い二階建の図書館は、いかにも、貴重な図書が一杯といった感じで、しかも自由に書庫の中で閲覧も出来て、楽しませてもらった。焼け残ったこの図書館が、薬学部の存続に大きな力となったと聞いている。

活字に飢え、印刷した物であれば飛ぶように売れた貧しい時代もすぎ、卒業し、昭和30年を過ぎる頃になると、図書館にも変化を感じられるようになった。

一つは、従来の大事な図書を保管し、見せてやる所から、図書を利用してもらう所として、自由に手に取り選べるようなオープン方式を取り入れる所が現われた。まだまだ貧しく、盗難や、ページ切り取りが頻発していた中での実行は大変だったと思う。

もう一つは、図書館員の“本のプロ”としての態度

である。勿論、司書という職名は昔からあった。文字通り本を大事に管理し司どる人であるが、これが、本を利用する人へサービスし、盡くす人への変身のきざしがみられた。

当時、私の働いていた医療では、抗生物質、精神安定剤、副腎皮質ホルモンといったキレ味のいい医薬品が次々と登場し、その効果に驚きながらも、その作用の著しい故に副作用も現われ、大きな薬害事件のきざしもみられる時期で、心ある医師の間では、医薬品の適正な使用についての情報の不足が、嘆かれ、不満が高まっていた。

調剤、製剤と従来の薬剤業務に精出していた未熟な薬剤師の私も、“薬のプロ”ならばこの医薬品の適正使用に手を貸すべきだと、その準備のための勉強をはじめた時であったが。一方、世の中も落ちつき、病気を治療する余裕も出たせいも、廊下に患者さんがあふれていても、設備や人数は昔のまま、従来の業務もまならない時期で、新しい仕事に目を向ける余裕もなく、いかに能率よくさばくか、最優先の時代であった。

又、まだまだ、戦前からの、治療してやる、患者の生死を握る者でもあった医師の各々の治療には、薬の処方と同僚の医師さえも口に出せない、犯すことの出来ない医師の裁量権の範囲とみられていた時期であった。副作用を避け、適正に医薬品が使用されるよう、処方の評価、助言は天をも恐れないことになる。しかし少数といながら、教授をはじめベテランの医師からの『私の処方厳しくチェックして下さい』といった言葉は、最大の支えであったが、同じように、“本のプロ”として努力されている姿には随分と、支えられたし、仲間といった親しさを感じていたわけである。

今では、殆んどどの図書館も随分と楽しめるようになった。

我家を子供図書館跡に建てたのも縁だが、近くに図書館が二つもある。

両方を利用すると、二、三十冊は借り出せる。

本を選ぶのも楽しいし、期限までには目を通さねばとの義務感から、チラチラと目を通すし、時には二回三回読む本にも出会うのもいい。

特に違った視点に出くわすのが為になる。有馬氏の種子島を読んだ当時留学生ノエル・ペリンが秀吉の鉄

(注1)

(注2)

砲狩りを取りあげ、当時の原爆にも相当する鉄砲を、日本人が捨て、忘れたことから、今日世界が原爆を捨てる事が出来るはずだというはげましにも、明治になって、小国町の山奥でひっそりと暮っていたキリスト信者部落を、全員殺して消滅させていった事実を掘起した一町医者の記録とも出会った。

私の担当している健康科学の領域では、マラリアについて教えられた。十七世紀になって手に入れたキニーネは、全世界のマラリアによる苦しみから救ったが、これは奴隷商人の手をはばんでいたマラリアの壁を取

りはずしたことになり、アフリカの人々の不幸のはじまりにもなったという視点が欠けているのを感じさせてもらったのは、図書館の一隅でみつけた図書からである。感謝している。

図書館には随分と楽しませてもらっているし、今後も死ぬまで楽しめるよう、目が見えて、文字が読めて、本が楽しめます様に神佛に願っている。

(ひとし たいぞう 教養部教授 健康科学)

注1 火砲の起源とその伝流 有馬成甫 吉川誠文館 1962

注2 鉄砲をすてた日本人 一日本に学ぶ軍縮 ノエル・ペリン著 川勝平太訳 紀伊國屋書店 1984

注3 肥後細川藩 幕末秘聞 河津武俊 講談社 1993

注4 世界史の中のマラリヤ 橋本雅一 藤本書店 1991

シリーズ熊本大学附属図書館蔵特殊資料紹介11

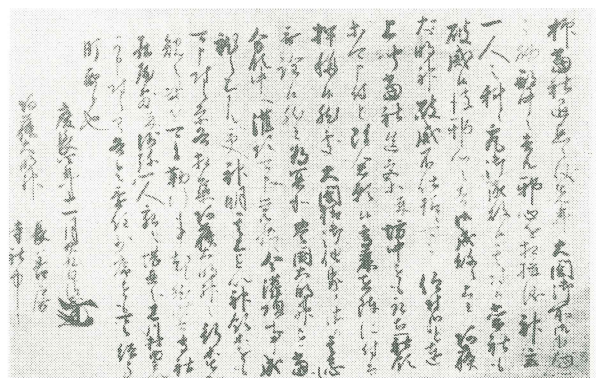
重要文化財 阿蘇家文書(34巻36冊)

工藤 敬一

今回は近世の阿蘇社領の成立に関わる文書を紹介します。戦国末、阿蘇勢力は衰退し、天正14年(1586)には山上の諸坊(現在の草千里辺にあったもので古坊中と呼ばれる)も島津氏によって焼き払われ、阿蘇氏の家臣も山上の衆徒・行者も四散してしまい、中世阿蘇氏武士団はほとんど壊滅状態となった。加うるに文禄元年(1592)大宮司惟光は、豊臣秀吉から梅北の乱(加藤清正の朝鮮出兵の最中に、島津義久の家臣梅北国兼が佐敷城を占拠した事件)に関わる責めを負わされて祇園山(花岡山)で殺害された。

加藤清正は、慶長4年(1599)領国支配の安定を考え、阿蘇社および諸坊の再興を図った。〔A〕(西巖殿寺文書)は「寺社居屋敷ならびに沙弥一人宛の堪忍分」として、つまり衆徒・行者らが坊舎を興し還住するよう黒川村内の地を付与したものである。この黒川村が今日の阿蘇町坊中である。さらに慶長6年清正は神主又次郎(惟光の弟の惟善)に対し、宮地・坂梨・竹原(いずれも一の宮町)に358石3斗4升の石高の土地を宛行っている。〔B〕はその宛行状、〔C〕は目録である。いずれも「履道應乾」の印文をもつ台形の清正の黒印が捺されている。

〔D〕は加藤氏改易のあと、寛永9年(1632)肥後の大守となった細川忠利の判物(花押をもつ宛行状)である。宮地・坂梨・竹原・黒川の所々989石余とあるので、さきの清正の2通の宛行分を加えたものとみられ



(佐藤進一著「古文書学入門」より転写)

〔A〕 加藤清正判物(西巖殿寺文書)

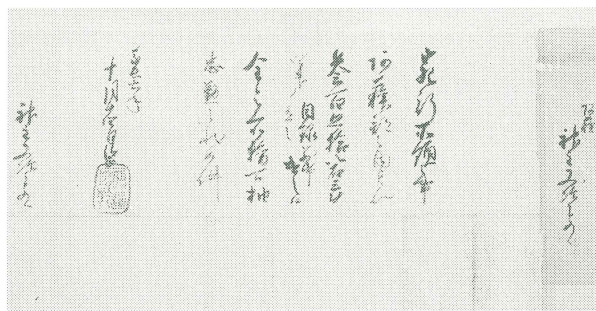
抑當社退点之儀、(天正十五年) 先年大開御所御下向之御、郡中之者共邪心を相構儀、神主一人之科二究、御成敗候、其付而當社も破滅候、彼邪心之者御成敗之上者、阿蘇大明神破滅不仕様二可被 仰付哉と達上聞、當社造宮等并坊中をも取立、社領等可申付と雖念願候、高麗在陣に付而、押移候、然處、大開様御他界二依而、其志も無詮候、然者、爲冥加、豊國大明神を當分領中へ灌頂可申覺悟候、令灌頂事成就之上にて受神明、其上を以神領等をも可申付之条、各相集、阿蘇大明神之行等、先規之姿を可有勤行事尤候、然時者、寺社居屋敷并沙弥一人宛之堪忍分、黒川村内を以可申付之間、各令還佳、少庵をも可被結事肝要候也、

慶長四年十一月廿九日 清正(花押)

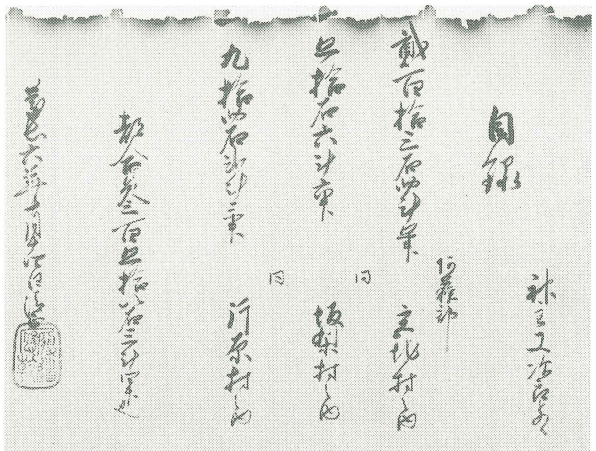
阿蘇大明神 長善房 寺社中

る。同日(寛永10年正月7日)付の目録(〔E〕)が西巖殿寺文書の中に見える。その後貞享4年(1664)12月、当時の藩主細川綱利は新に蔵原村(一の宮町)の

100石の地を寄付(その目録は5年2月18日付)、以後あわせて1089石余が阿蘇社の領知高となり幕末に及んだ。



[B]
 加藤清正黒印状
 (折紙ウハ書)
 「阿蘇」 神主又次郎とのへ
 宛行所領之事、
 阿蘇郡之内を以
 參百五拾八石三斗
 四升 目録別等 遣之候、
 全令所務、可抽
 忠勤之状如件、
 慶長六年
 十月十四日 清正 ○ (黒印)
 (阿蘇惟善)
 神主又次郎とのへ



[C]
 加藤清正所領充行目録
 神主又次郎とのへ
 目録
 一、貳百拾三石四斗五升 阿蘇郡 宮地村之内
 一、五拾石六斗六升 同 坂梨村之内
 一、九拾四石貳斗三升 同 竹原村之内
 都合參百五拾八石三斗四升也
 慶長六年十月十四日 清正 ○ (黒印)

[E]
 阿蘇宮領總目録(西嚴殿寺文書)
 (折紙ウハ書)
 阿蘇宮領總目録 淺山修理亮
 田中兵庫助
 横山 助進
 阿蘇宮社領高九百八拾九石六斗壹升之内
 配分之目録
 一、高三百五拾八石三斗四升 神主
 一、高百六拾六石五斗八升 社家中
 一、高百八拾九石貳斗 衆徒中
 一、高百六拾石八斗 行者中
 一、高四石七斗 御神事領
 一、高參石五斗八升 經坊
 一、高五石 鐘撞
 以上 大山寺
 右、任先 無相違御寄進之旨、被仰出候間、如前之
 可有配當者也
 寛永拾年正月七日 横山 助進(花押) ○ (黒印)
 田中兵庫助(花押) ○ (黒印)
 淺山修理亮(花押) ○ (黒印)
 (阿蘇友貞)
 神主又次郎殿
 長善坊
 寺社中
 阿蘇宮

なお、細川忠利の判物 = [D] と同日付の目録 = [E] が、阿蘇家文書と西嚴殿寺文書に分有されるなど、本来一体であるべき関係文書が分有されるにいたった理由は、今日の西嚴殿寺文書が文久元年(1861)に衆議によって軸装して宝庫に納めたことが記録されているので、それ以前、おそらくは19世紀初頭に、阿蘇惟馨が『阿蘇家伝』の編集のため関係史料を集めた際に生じた混乱によるのではないかと思われるが、なお検討の要がある。

(付記) これまで「東光原」第2号の鎌倉時代はじめの「北条時政書下」から始めて、11回にわたって附属図書館所蔵の阿蘇家文書の一部を紹介して来た。もちろん他にも紹介に値する文書は少なくないが、今回の江戸時代の分まで時代をおって下って来たので、これをもってひとまず打ちどめとしたい。なお阿蘇家文書34巻は、文部省および大学当局の理解を得て、ほぼ毎年2巻ずつ重要文化財にふさわしいみごとな太巻の軸装として蘇生している。なお現在過半を残しているが、順調な進捗を期待したい。

(くどう けいいち 文学部教授 国史学)

本学教官寄贈著書紹介

巨海玄道 (教養・物理)
 物理教育とその周辺Ⅲ 地震に学ぶ
 日本物理学会九州支部 1995.8
 (1995年度夏季シンポジウム)

情報サービスと資料保存

(平成7年度大学図書館職員長期研修に参加して)

成 田 和 則

1. はじめに

最近、「電子図書館」とか「保存図書館」という言葉をよく耳にするようになった。今回の研修でも講義等でよく取り上げられた話題である。

なるほど、この1・2年の情報基盤の整備、マルチメディアの発達、そして、インターネット利用の急速な拡がりは、図書館の情報サービスに大きな変化をもたらした。一方、印刷媒体としての資料については、その急速な増加による収納スペースの狭隘化、資料の劣化が大きな問題となっている。

2. 資料の電子化と情報サービスの現状

インターネットによる情報の流通と利用の拡大、更に、WWWの急速な普及は図書館の情報サービスに大きな影響を及ぼした。そして、大学図書館においてもWWWサーバーを構築し、図書館案内、OPAC、CD-ROM検索等のサービスを実施するようになった。特に、OPACは図書館情報サービスの中核をなすことから、遡及入力による収録対象の拡大、検索手段(主題による)の整備、24時間サービス等、情報サービスの充実が望まれている。また、インターネット上でサービスされるその他の情報資源についても、これを効果的に探索するため、的確なナビゲーション・ツール(WWW, Gopher等)によるサービスが求められている。

このようにネットワーク上での情報サービスにより、流通する情報が出版物から電子情報へ代替されるようになり、従来の印刷媒体としての資料(Index medicusに代表される索引・抄録誌、百科事典、辞書等)がCD-ROM形態として出版され、更に、CDサーバーの導入により直接ネットワーク上でも供給されるようになった。また、ネットワーク上で流通される電子ジャーナルも数多く出現し、印刷体にはない検索の質と速報性を高めている。そこで、従来から図書館で所蔵している資料についても、SGMLやTEI等に準拠しながらテキストの電子化を進めていくことが望まれる。

また、ネットワーク上で流通される電子情報の増加に伴い、世界の主要な出版社・学協会等が2次情報データベース、コンテンツ、ドキュメント・デリバリ等のサービスを始めた。OCLCのFirst Search, UnCover, Silver PlatterのInternet Subscriptionがそれである。

3. 資料の保存システム

現在、大学図書館が抱える資料保存の問題は、増加する資料の量と保存スペースの狭隘化、資料の劣化対策、そして、オンライン・ネットワークの進展に伴う資料(情報)保存(利用)のシステム化ではなかろうか。資料の増加や保存スペースについては、増築・書架増設といった対応もあるが、現状では予算的制約や設置スペースの問題もあり、簡単には出来ないようである。資料の劣化については、その原因と劣化度を把握したうえで、中性紙の使用、保存環境の改善、資料のマイクロ化等の対応が進められている。また、保存のシステム化は、拠点図書館としての外国雑誌センターにおける一次資料の保存と相互貸借(ILL)による資料サービスにその一例を見ることができる。

このような状況の下、効果的な保存のためには、保存すべき資料について明確な方針をもつことである。例えば資料内容の保存か資料自体の保存か、原型保存か代替保存かというようなことについて考えていくべきである。そして、文献年齢や利用の実績、廃棄、再配置を考えたいと、古い資料を確実に保存し収蔵効率を高めながら、利用頻度の多い資料を使い易く配架しなければならない。そのために、電動式集密書架の導入も進められている。

今後は、各大学図書館の連携の下に、広い視野にたって、利用の便宜や資料形態等を総合的に判断して資料の適切な保存と廃棄を行う必要がある。そして、地域や主題別に中核的役割を果たす大学図書館が、それぞれに分担保存を行う保存図書館機能が求められる。将来的には全国規模の共同保存図書館構想へと展開するであろう。

4. おわりに

平成7年度大学図書館職員長期研修(H7.7.10~7.28)に参加して、講義やその他の話題のなかで興味深く思ったのが「電子図書館」と「保存図書館」の話であり、それぞれが相互にどう関わっているのか、どういう立場にあるのかということであった。

結局、相互の関わりについては、適切な解答を持ち得なかったが、上述のネットワークによる情報の流通と利用、資料の効果的な保存システムの構築に、「電子図書館」と「保存図書館」の姿を見たような気がする。

(なりた かずのり 情報管理課目録係長)

図書館諸統計（平成6年度）

I 受入統計

① 年間受入統計

館種 区分		中央図書館			医学部分館			薬学部分館			合計
		購入	寄贈・その他	小計	購入	寄贈・その他	小計	購入	寄贈・その他	小計	
図書	和漢書	9,069	1,963	11,032	268	632	900	220	155	375	12,307
	洋書	3,688	4,932	8,620	223	1,389	1,612	51	594	645	10,877
	計	12,757	6,895	19,652	491	2,021	2,512	271	749	1,020	23,184
雑誌	日本語	1,827	2,725	4,552	188	443	631	43	77	120	5,303
	外国語	1,540	322	1,862	553	70	623	86	1	87	2,572
	計	3,367	3,047	6,414	741	513	1,254	129	78	207	7,875
新聞	日本語	10	16	26	4	3	7	6	3	9	42
	外国語	3	5	8	1	0	1	0	0	0	9
	計	13	21	34	5	3	8	6	3	9	51

② 蔵書累計

館種 区分		中央図書館	医学部分館	薬学部分館	合計
図書	和漢書	642,596	67,521	14,526	724,643
	洋書	306,444	90,095	17,023	413,562
	計	949,040	157,616	31,549	1,138,205
雑誌	日本語	9,588	1,695	268	11,551
	外国語	3,380	1,823	261	5,464
	計	12,968	3,518	529	17,015

II 利用統計

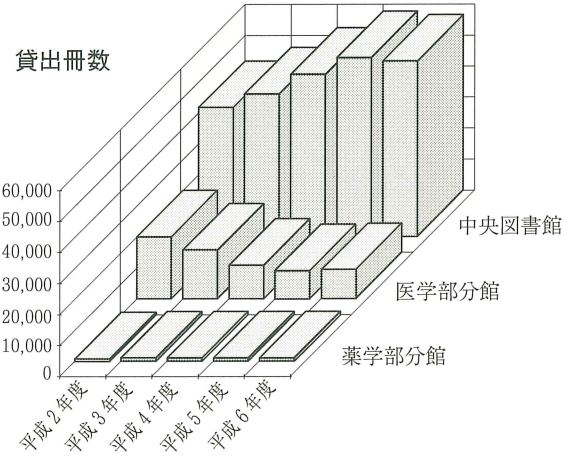
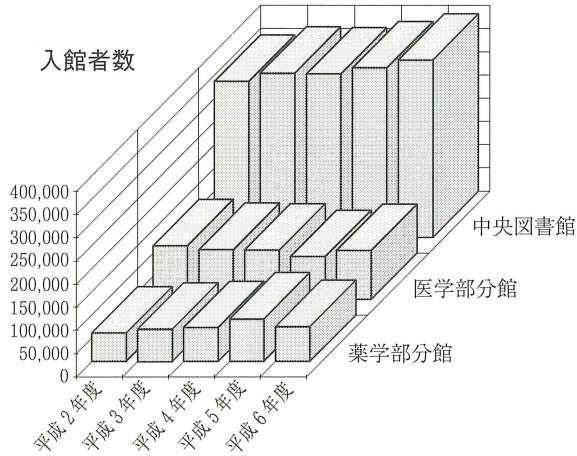
① 入館者数及び貸出数年間統計

館種 区分 年月	中央図書館			医学部分館			薬学部分館		
	入館者数		貸出冊数 (図書のみ)	入館者数		貸出冊数 (図書・雑誌)	入館者数		貸出冊数 (図書のみ)
	入館者総数	(内数) 時間外入館者数		入館者総数	(内数) 時間外入館者数		入館者総数	(内数) 時間外入館者数	
平成6年4月	23,988	4,420	2,943	6,637	1,921	568	5,988	1,226	48
5月	32,455	7,689	5,311	7,002	2,836	822	5,105	1,598	61
6月	38,665	10,063	6,298	9,613	3,840	1,085	7,536	2,272	176
7月	44,044	5,420	3,771	9,117	1,582	811	5,110	606	74
8月	25,004	時間延長なし	2,186	7,675	時間延長なし	559	5,318	時間延長なし	30
9月	54,447	8,012	6,295	10,494	3,270	805	5,719	1,009	86
10月	31,332	7,189	5,377	9,803	4,423	824	7,572	2,217	107
11月	24,249	5,033	5,631	8,431	3,570	786	5,443	1,685	144
12月	22,111	5,455	4,716	7,968	2,953	736	4,690	1,414	111
平成7年1月	27,904	6,187	5,745	7,981	2,994	737	5,032	1,345	79
2月	41,164	8,517	5,926	11,363	4,819	1,029	9,266	2,563	106
3月	15,875	3,953	2,392	9,337	3,832	754	8,028	2,257	56
計	381,238	71,938	56,591	105,421	36,040	9,516	74,807	18,192	1,078

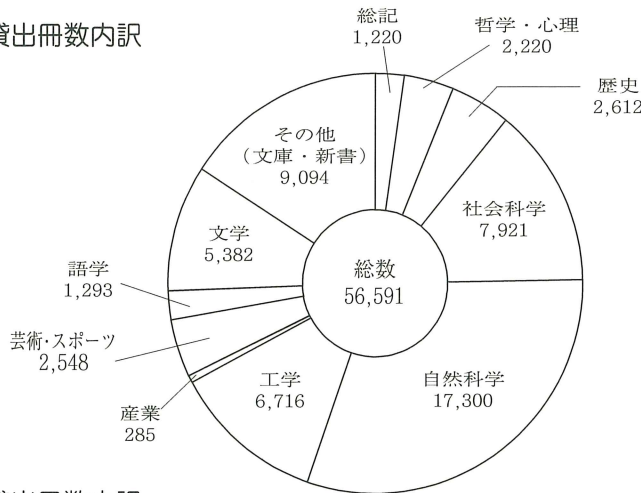
② 入館者数及び貸出冊数年次推移

館種 区分 年度	中央図書館			医学部分館			薬学部分館		
	入館者数		貸出冊数 (図書のみ)	入館者数		貸出冊数 (図書・雑誌)	入館者数		貸出冊数 (図書のみ)
	入館者総数	(内数) 時間外入館者数		入館者総数	(内数) 時間外入館者数		入館者総数	(内数) 時間外入館者数	
平成2年度	33,983 302,165	58,960	5,388 36,343	115,763	57,630	20,012	61,173	—	785
平成3年度	35,345 318,029	64,319	6,267 39,779	107,314	33,920	15,824	69,134	18,653	1,138
平成4年度	351,976	72,199	52,441	106,113	26,996	10,882	72,725	17,473	1,030
平成5年度	365,052	71,392	57,669	92,318	29,702	8,943	90,835	22,848	976
平成6年度	381,238	71,938	56,591	105,421	36,040	9,516	74,807	18,192	1,078

* 中央図書館の上段の数字は工学部分室の統計で外数である

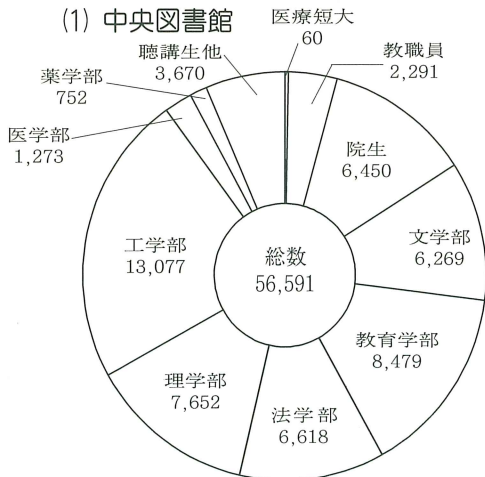


③ 中央図書館分野別貸出冊数内訳

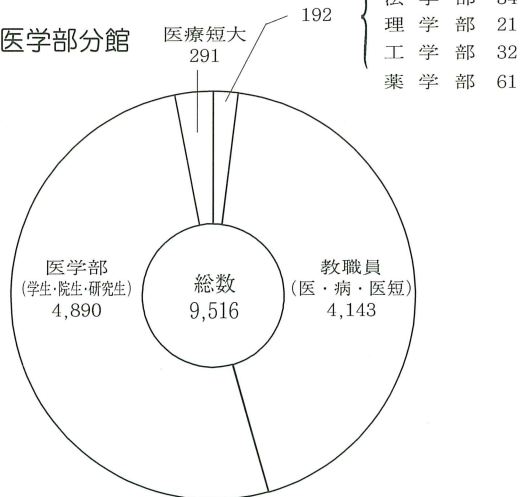


④ 貸出者所属学部別貸出冊数内訳

(1) 中央図書館



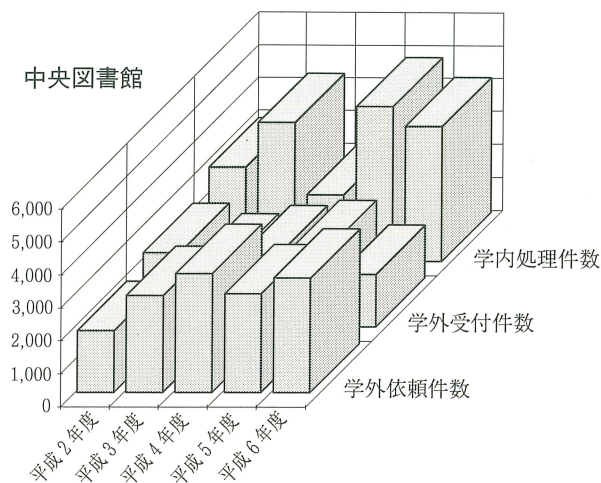
(2) 医学部分館



- 文学部 15
- 教育学部 29
- 法学部 34
- 理学部 21
- 工学部 32
- 薬学部 61

⑤ 文献複写年間統計

区分 館種	学外依頼件数		学外受付件数		学内処理件数	
	依頼	受付	依頼	受付	依頼	受付
中央図書館	3,473	1,597	4,087			
医学部分館	2,137	5,117	277			
薬学部分館	638	1,152	257			
合計	6,248	7,866	4,621			

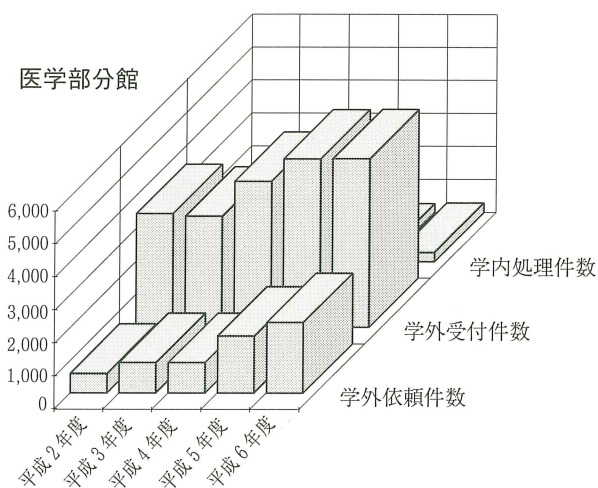


⑥ 中央図書館文献複写年次推移

年度	学外依頼件数	学外受付件数	学内処理件数
平成2年度	1,871	2,238	2,830
平成3年度	2,931	1,921	4,189
平成4年度	3,603	2,178	2,002
平成5年度	2,996	2,340	4,685
平成6年度	3,473	1,597	4,087

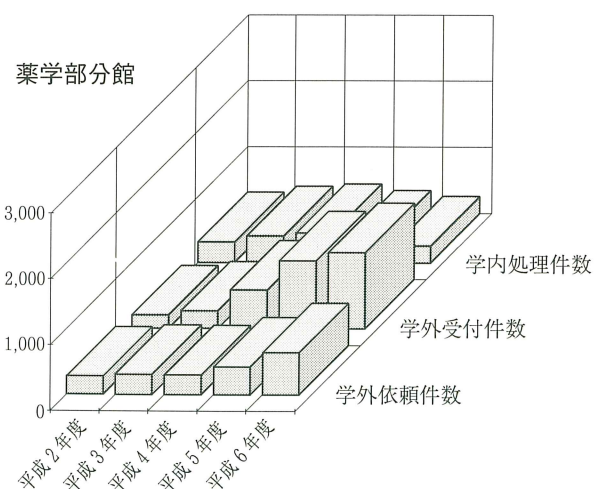
⑦ 医学部分館文献複写年次推移

年度	学外依頼件数	学外受付件数	学内処理件数
平成2年度	590	3,444	533
平成3年度	918	3,366	322
平成4年度	916	4,426	244
平成5年度	1,724	5,109	263
平成6年度	2,137	5,117	277



⑧ 薬学部分館文献複写年次推移

年度	学外依頼件数	学外受付件数	学内処理件数
平成2年度	276	203	312
平成3年度	303	265	404
平成4年度	299	581	440
平成5年度	420	1,025	345
平成6年度	638	1,152	257



⑨ 全学統計文献複写年次推移

年度	学外依頼件数	学外受付件数	学内処理件数
平成2年度	2,737	5,885	3,675
平成3年度	4,152	5,552	4,915
平成4年度	4,818	7,185	2,686
平成5年度	5,140	8,474	5,293
平成6年度	6,248	7,866	4,621

⑩ 図書館間相互貸借統計年次推移

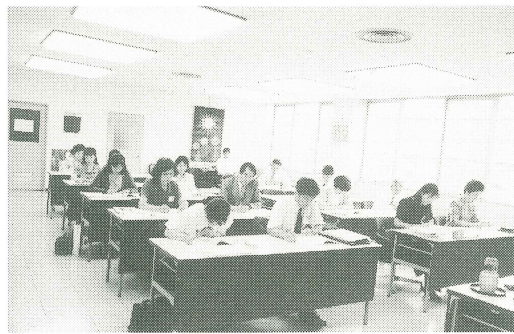
年度	中央図書館		医学部分館		薬学部分館		計	
	依頼	受付	依頼	受付	依頼	受付	依頼	受付
平成2年度	132	199	2	8	2	0	136	207
平成3年度	284	276	0	15	0	1	284	292
平成4年度	319	362	0	8	0	2	319	372
平成5年度	359	395	5	5	3	4	367	404
平成6年度	379	399	8	12	1	1	388	412

平成7年度 ILLシステム 地域講習会を開催

平成7年6月22日(木)から23日(金)の2日間、ILLシステム地域講習会を開催しました。熊本大学図書館では、これまで目録システム講習会を平成3年度より毎年、行ってきましたが、ILLシステム講習会は今回初めて開催しました。九州地区としても初めてのILL地域講習会でしたので、講師側も大いに緊張しましたが何とか無事終了することができました。受講生は、熊本県立大学、大分大学、佐賀医科大学、九州産業大学、福岡大学、九州歯科大学、九州東海大学の7名と、熊本大学3名の計10名でした。

ILL(Inter-Library Loan)システムとは、電子通信を使って行う図書館間相互利用業務の事ですが、平成4年度のシステムの開始により、文献入手の時間が大幅に短縮され、利用者により良いサービスを提供できるようになりました。相互利用業務の増大と共にILLシステムの参加館も年々増え、平成6年度現在、379の組織がこのシステムに参加しています。そういう背景もあり、受講生も講義・実習に熱心に取り組み、講師側としても大変勉強になりました。

(情報サービス課 参考係)



(ILLシステム地域講習会)

平成7年度目録システム 地域講習会を開催

学術情報センターと共催による標記講習会を今年も6/19(月)から6/21(水)の3日間、中央館に於いて開催しました。この講習会は学術情報センターの目録(NACISIS-CAT)の「運用に関する知識・技術を習得させること」を目的とするものです。受講者は学外から6名、学内から3名の計9名で、なかには、未接続館からの参加もありましたが、マンツーマンによる指導のもと、全員熱心に受講され、無事に講習会を終了しました。

(情報管理課 目録係)

熊本県大学図書館協議会 実務者研修会

県内大学図書館の連携を一層深めるため、今年4月に発足した「熊本県大学図書館協議会」をうけ、同協議会メンバーを中心とした「第一回実務者研修会」が、新館もない学園大学図書館で開催されました。

午前は「図書館建築について」学園大の小川氏の講演と新館紹介があり、午後からは「熊本県図書館ネットワークについて」現況報告、及び「相互利用について」の協議がなされました。

図書館の窓口業務を行っている担当者同士の会議ということもあり、「相互利用」については、日ごろの悩みや疑問など、現実的な問題が多く話し合われ、実務者研修会として意義のあるものとなりました。

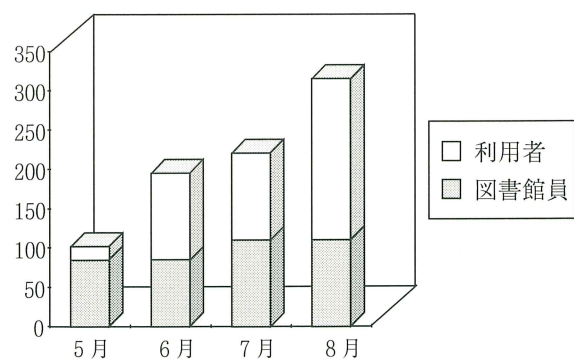
(参加大学)

銀杏学園短期大学、熊本音楽短期大学、熊本学園大学、熊本工業大学、熊本県立大学、熊本大学、九州女学院短期大学、尚絅大学、中九州短期大学、(欠席：尚絅短期大学、九州東海大学)

24時間利用状況(医学部分館)

5月から8月までのIDカードによる入退館をグラフにしてみました。7月から、利用者に大学院生等を加えたことや夏休みに入ったことなどの影響で、利用者数が急激に増加しています。

(医学部分館 運用係)



ザ・CD-ROMレビュー

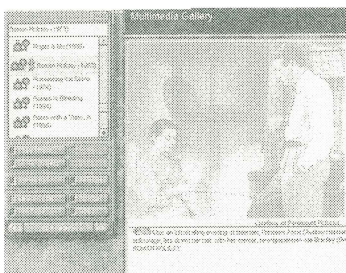
CD-ROMの隆盛には目をみはるものがある昨今ですが、熊大図書館でも6月末に開始したウィンドウズ版CD-ROMのサービスはますますのすべりだして、利用も顕著に伸びてきています。

ソフトの大半はアメリカ製のものですが、純国産のものや日本語版に焼き直したのものも含まれており、今回はその中から図書館職員がチェックした作品、数点をご紹介します。

CINEMANIA' 95

マイクロソフト

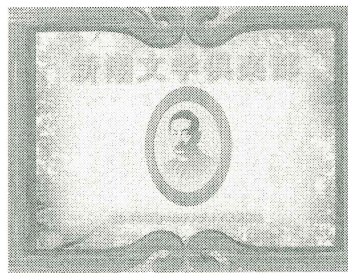
Microsoft Homeという一群のソフトの1つで過去80年間に上映された映画約19000点につき、製作情報やレビューなどの資料を得ることができる。探したい映画を一覧から選ぶこともできるが、検索機能が付いているのでそこから探すのが便利。映画の有名な場面のスチル1000点や音声(セリフ)168点、映画音楽135点、映像20点他さまざまなデータが収められている。映像については思ったより少ないのが残念。また、映画のタイトルもすべて英語なので原題を知らないと探しにくいという面もある。しかし、情報量としては他に類を見ないだけに、映画のデータベースとしての価値は高い。



新潮文学倶楽部

NECホームエレクトロニクス

新潮日本文学辞典と新潮世界文学辞典という2つの参考図書をもとに映像、音声をミックスしてマルチメディア化したソフト。ソフトが立ち上がるとまずその日の出来事として過去どのようなことがあったかが表示されます。両辞典の全項目が検索できる他、スライドショーやムービーを見たり、朗読や作家の肉声を聞くこともできる(ただし、一部分)。木登りをする芥川龍之介もあつたりして、なかなかの感動ものです。また、文学に関する情報機

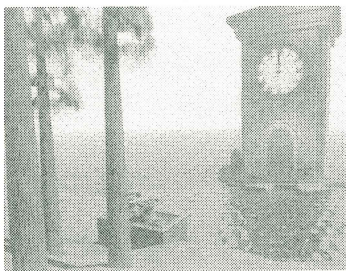


関(例えばわが熊大図書館)の情報も検索できます。文学辞典がベースなだけに各作品の全文を読むことはできませんが、遊びながら文学を学べる秀作です。

MYST (日本語版)

インタープログ

夢を見ているとき、これは夢だとわかる夢がある。俺は夢を完全にコントロールしたゾ、そう思った瞬間、その夢が予期せぬ方向に展開していったとしたら我々はどうするか。その対応は人それぞれだろう。だからこの物語も決して1つの答えしかない訳ではない。



MYSTの孤島で何をしなければならぬか、なぜここにいるのか、それはすべて隠されている。意味のある場所はさわる(クリックする)ことができるが、それらは最初、断片的な意味ばかりなので、すべてを紡ぎ合わせ世界を再構築するにはイマジネーションが必要なのだ。アメリカで製作され、現在もなお高い売れ行きを記録しているソフト。これは単にゲームを越える何かをもっているようだ。(要フロッピーディスク)

これ以外にも内容的にグレードの高いソフトがたくさんあります。一度ぜひ、CD-ROMコーナーを覗いてみてはいかがでしょうか。レファレンスカウンターではCD-ROMタイトルリストも用意しております。また、東光原No.11にも全タイトルを掲載しております。

利用方法はいたって簡単で、レファレンスカウンターにて必要事項を記入し、図書館利用証(ライブラリカード)を預けるだけでOK。もちろん無料です。また使用にあたってはヘッドホンを付けていただくのが原則です。(ヘッドホンはお貸しいたします。)データを途中でセーブできるソフトについては、別にフロッピーディスクをご用意下さい。(必要ならば、フォーマットは図書館でもサービスいたします。)

(情報サービス課 中尾康朗)

東光原No.11CD-ROMタイトルリストに誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

9頁左段

13行目 自館 → 時間

16行目 【38 Pixel Garden植物図鑑】欠落

図書館委員の交替

平成7. 5. 2	退任	医療短大	松本英世
平成7. 7.10	〃	教養部	福澤清
平成7. 5.19	就任	医療短大	園田志津子
平成7. 7.11	〃	教養部	樋口康夫

お知らせ

「第12回熊本大学附属図書館特殊資料展」を、下記の要領で開催します。

又、熊粋祭のオープンハウス企画として、同時に図書館の一般公開も行います。

記

会期：平成7年11月3日(金)～11月5日(日)

期間：10：00～16：00

会場：附属図書館自由閲覧室（B1F）

テーマ：永青文庫の文学書

出品資料：「豊後風土記」「伊勢物語」

「俊成卿定家卿両筆（写真）」他

講演会：演題「永青文庫の文学書」

講師 熊本大学文学部教授 荒木 尚氏

日時 平成7年11月3日(金)13：30～15：00

会場 会議室（2F）

編集後記：第2号より掲載いただきました工藤教授の阿蘇家文書の解説は本号をもちまして終了致しました。菊池・宇土・河尻等の地元の地名が多く出てくる文書だけに親しみやすく、又平易な文章で分かりやすい解説をいただき、歴史が身近かに感じられました。御多忙の中永い間本当に有難うございました。

次号からは宝の山である永青文庫の解説・説明を文学部荒木教授の執筆で掲載する予定であります。

御期待下さい。

日誌（平成7.5.1～8.31）

- 5. 1 医学部分館入退管理装置テープカット式
- 5. 9 附属図書館委員会
- 5.11 附属図書館係長会議
- 5.16 古典籍研修会
- 5.17 第66回日本医学図書館協議会総会（於川崎）～20
- 5.26 国立大学附属図書館事務部課長会議（於東京）
- 5.30 情報ネットワーク委員会
- 6. 8 附属図書館係長会議
- 6.19 平成7年度目録システム地域講習会～21
- 6.22 平成7年度ILLシステム地域講習会～23
- 6.27 熊本県図書館連絡協議会理事会
- 6.27 第42回国立大学図書館協議会（於東京）～30
- 6.30 図書館報編集委員会
- 7. 4 附属図書館委員会
- 7. 7 96年度外国雑誌購入に関する打合せ
- 7.10 平成7年度大学図書館職員長期研修会～28（於東京・筑波）
- 7.20 附属図書館係長会議
- 8. 2 熊本県図書館連絡協議会～3（図書館関係研修会・初級）
- 8. 3 図書館報編集委員会
- 8.11 熊本県大学図書館協議会実務者研修会

東光原一熊本大学附属図書館報一第12号

平成7年10月

編集発行 熊本大学附属図書館

〒860 熊本市黒髪2丁目40番1号

TEL (096) 342-2273

FAX (096) 345-9087